

【プラン4】学力向上検証改善サイクルの機能化

～全市的な学力向上推進体制の確立～

○「学力向上ヒアリング」の実施

- ・飯塚市教育委員会と各学校長の面談において、課題や具体的な改善策についての協議・指導を行う。

○教務担当者研修の強化

- ・各学校の課題を踏まえた学力向上のPDCAサイクルの確立を目指す。

【第1回研修会(9月頃)】
全国学力調査等の結果分析と検証改善のプランの検討

【第2回研修会(2月頃)】
学力向上の取組の成果と課題に基づいた次年度のプラン作成について

○飯塚市学力向上フォローアップ校の指定

- ・指定校の検証改善プランの作成や学校教育課によるプラン実行のための支援を通して学力向上を目指す。

【第1回(9月頃)】
学力に関する課題及び要因の検討

【第2回(10月頃)】
学校の取組と学校教育課の支援策の明確化

【第3回(2月頃)】
学力向上の取組の成果と課題

【プラン1】日常的な授業改善

～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善～

○飯塚市協調学習推進事業

- ・協調学習に関わる研修会等の実施
- ・市内全小中学校における協調学習の公開授業の実施
- ・飯塚市協調学習エキスパート教員の養成

○「中学校授業改善研修会」の実施

- ・中学校の学力実態を受け、各教科の特質に応じた中学校教職員における授業改善に向けて、講義及び演習を通して授業力の向上を目指す。

～グローバル化に対応した児童生徒の育成～

○外国語教育推進事業

- ・オンライン英会話を取り入れた授業の実施

『小学校』 6年生…年 8回(1対1 マンツーマン学習)
5年生…年 10回(1対2 ペア学習)

『中学校』 1・2年生…年 8回(1対1 マンツーマン学習)
3年生…年 6回(1対1 マンツーマン学習)

- ・ALT(外国人教師)の活用

『小学校』 3・4年生…年 学級5回
『中学校』 全学年 …年 学級8回

- ・小学校外国語専科による専門性の高い指導の充実

○外国語教育推進連絡協議会の設置

- ・効果的な指導方法について協議することで授業改善についての具体的な方策を見出す。

【プラン3】人材育成

～指導力向上を目的とした人材育成の推進～

○「人材育成計画シート」の活用

- ・若年教員及び中堅教員に対して、必要な素養や実践力の組織的・計画的な育成を図る。

【第1回提出(7月頃)】
人材育成計画シートの計画について

【第2回提出(2月頃)】
人材育成計画シートの評価及び報告について

○「小中学校助教諭指導力向上研修会」の実施

- ・若年教員及び助教諭等同士で研修をしたり、コミュニティを形成したりする場を設定することを通して指導力の向上を図る。

【第1回研修会(5月頃オンライン)】
学級経営について

【第2回研修会(8月頃集合型)】
特別支援教育について
生徒指導について

【第3回研修会(11月頃オンライン)】
人権教育について

【プラン2】基礎・基本の徹底推進

～学力の基盤となる「読み・書き・計算」と集中力向上の促進～

○多層指導モデルMIM

- ・『提唱及びアドバイザー』… 海津亜希子氏(小学校)
- ・小学生1年生に対し「特殊音節」に焦点を当て、動作化や絵カード、マッチングゲーム、プリント学習等にて習得を目指し、アセスメントテストにより習得状況に応じた個別の支援や配慮を行う。

○徹底反復学習

- ・『提唱及びアドバイザー』… 陰山英男氏(小学校) 小河 勝氏(中学校)
- ・帯時間を用いた「音読」「ます計算」「漢字習得」及び「モジュール学習」の実施
- ・学力向上検証委員会における学力向上モデル校へのアドバイザー及び学校教育課からの直接指導を行う。

次代の飯塚市を担うひとづくりについて

1 JA(ジュニア・アチーブメント日本)プログラム

社会のしくみと経済の働きを正しく理解し、自らの意思で進路選択・将来設計をすることを旨とする。

① スチューデント・シティ

ア 対象

飯塚市立全小学校(19校)の5年生

イ 学習の流れ

○事前学習

体験活動を行うために必要な経済や金融に関する基礎的な知識や技能を学ぶ。

○体験学習(スチューデント・シティ)施設利用

それぞれの会社の経営側と消費側を交互に体験することを通して、税の仕組みや会社同士のつながり、収入と利益・給与・支出の関係などを学ぶ。

○事後学習

体験からわかったことや今後、学習に活かしていきたいこと等について学ぶ。

② ファイナンス・パーク

ア 対象

飯塚市立全中学校(10校)の1年生

イ 学習の流れ

○事前学習

体験学習を行うために必要な経済や金融に関する基礎的な知識や技能を学ぶ。

○体験学習(ファイナンス・パーク)施設利用

あらかじめ設定された年齢や家族構成、年収などをもとに一人の大人として、収入や支出に関する意思決定を行い、自らの関心ごとや希望するライフスタイル等に基づいて将来の進路を体験的に考える学習を行う。

○事後学習

体験からわかったことや今後、学習に活かしていきたいこと等について学ぶ。

2 STEAM教育

各教科・領域固有の知識や考え方を統合的に活用することを通して、問題解決的な学習を目指す。

① 内容

Science,Technology,Engineering,Art,Mathematicsの頭文字をとったものであり、各教科での学習を実社会での問題解決に生かしていくための教科横断的な教育であり、子どもたち自身に課題を発見させ、問題を解決していく学習スタイルを重視した教育(飯塚市STEAM教育実証研究指定校:小中一貫校飯塚鎮西校 小学部)